

# 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立 浅香山中学校  
校長 中谷 浩治

中学校区におけるめざす子ども像  
肯定的に自己を見つめ、目標に向かって主体的に行動できる子。

令和6年度 重点目標  
(1) 美しい教育環境を作り、豊かな心を持つ生徒を育成する。 (2) 生徒が「わかる」「楽しい」と感じる授業を展開し、教員の授業力の向上と生徒の学力の向上を図る。 (3) 夢をはぐくみ、将来を見据えた進路指導を展開する。  
(4) ICT機器を活用し生徒の学力向上を図る。 (5) 保護者・地域から信頼される学校づくりに取り組む。

「確かな学び」の現状  
校内アンケートの結果では80%以上の生徒が授業に集中して取り組んでいると答えた。しかし、自分で計画立てて勉強しているという生徒は65%程度にとどまり、学習意欲の低い生徒への個別指導や、自分の課題を自ら見つけて取り組ませるような授業の展開が課題である。今後も引き続き研究授業や公開授業を実施し、個々の教員の授業力向上や家庭との連携を図りたい。また、ICT機器活用を充実させ、思考力・判断力・表現力を養えるような取り組みをすすめ、各教科や各学年・学級で生徒自身が活用の実感を味わえるようにしたい。

「豊かな心・健やかな体」の現状  
学校教育アンケートの結果で学校生活が楽しいと答えた生徒が90%程度、人の役に立つ人間になりたいと答えた生徒が90%を上回った。相手や他人のことを思いやる心は育っているが、自分には良いところがあると答えた生徒が70%程度ということから、個々の良いところを認識し、自己肯定感を高めるような活動を行事や道德教育を通して、家庭や地域と連携しながら昨年度以上に実践したい。生徒たちが自分自身の体力や健康状態を知り、資質・能力を向上させたい。今年度も全学年で新体力テストや体育ノートを充実させ、自分に足りない力を考えさせ、思考を深めさせ体力の向上を図る。併せて、体育大会やクラスマッチを実施し、協力することの大切さや素晴らしさ、達成感も味わわせたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	学習習慣の定着	学習に前向きに取り組む、家庭学習の習慣が定着している生徒の育成	●授業改善を通して、学習に対する関心・意欲・態度を高める。	関心・意欲・態度に関する各質問への肯定的な回答が全学年平均で85%以上。	堺市学習・生活状況調査 学校教育アンケート結果	12月	○	全学年、全クラスにおいて、概ね授業に対して積極的に取り組んでいる。	A	学年による差異はあるが、授業に集中して取り組んでいる肯定回答が目標準を上回った。また学校以外での学習等への取組みも評価できる。ただ早い段階からの習慣強化が必要である。	A	授業に集中できているという生徒の意識と、現在の落ち着いた教育環境は一致している。今後、学力向上に結びつく家庭学習への指導が大きな課題である。
			学校から帰宅後の学習について、学校と家庭が共通理解を図り、計画的に取り組む。	宿題や復習などに取り組んでいるという肯定的な回答が全学年平均で75%以上。	堺市学習・生活状況調査 学校教育アンケート結果	12月	○	教科ごとに特性はあるものの、こまめに課題を与えて工夫している教科がある。	B			
	学力の向上	自ら学び、学んだことを社会で生かすことのできる幅広い学力の育成	生徒にとってわかりやすく、生徒たちが積極的・主体的に取り組む授業を実践する。	授業がわかりやすいという肯定回答の割合が全学年80%以上	堺市学習・生活状況調査 学校教育アンケート結果	12月	○	ペアワークやグループワークを取り入れる教科が増えてきた。	A	判断基準に関する肯定回答が目標準を上回り、生徒と職員が比較的良好な関係の下で、落ち着いた教育活動となっていると判断できる。また、考えを深める、まとめる、話し合うといった授業展開も着実に定着している。職員は個別に教科の研究授業に取り組み、振り返りによる意見交換で授業力向上を心がけた。	A	授業内容の理解や、わかるまで教えてもらえるという意識の高さは肯定回答の多さから判断できる。今後、学びの定着に向けた反復学習の習慣化をめざし家庭との協力が不可欠である。ICT機器の活用は、家庭への持ち帰りや使用頻度の向上が課題であり、教科の特性に応じた活用方法の研究が期待される。
豊かな心・健やかな体	豊かな心	自分のよさや可能性を知り、相手の立場を思いやり大切にできる豊かな心、秩序を重んじる規範意識を持った生徒の育成	相手の立場を思いやり、誰にでもきちんとあいさつできる生徒を育成する。	あいさつしている、思いやりを持ち行動しているという肯定回答が全学年80%以上	堺市学習・生活状況調査 学校教育アンケート結果	12月	◎	登校指導を始め、生徒の声に耳を傾け、寄り添うこと念頭に生徒指導を実施している。	A	年間を通じた登下校指導等で挨拶の習慣づけと人間関係作りに取り組み、いずれの学年も肯定評価が目標準を上回った。また、規範意識の高さは目標値を上回り、道德授業の推進および授業力向上も一定の評価ができる。	A	地域住民からの声掛けに対して挨拶を返せる生徒は多いことから、あいさつや人間関係作りに対する意識の高さは伺える。ただ、進んで挨拶できるかどうかは、個々の精神発達状況によるところが大きいことから判断の分かれるところである。規範意識の高さがこれからも維持できるよう、様々な教育活動を通して指導していただきたいところである。
			●道德授業を中心に据え、組織的・計画的に道德教育を推進し、人間力向上に努める。	きまりや約束を守り、困っている人を助ける意識に対する肯定回答が全学年90%以上。	堺市学習・生活状況調査 道德授業実施状況	12月	○	各学年が全員ローテーションで授業を実施し、質の高い道德授業を意識している。	A			
			いじめ防止対策基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に取り組む。	困っている人を助ける、相手を思いやる気持ちを持つなど、いじめのない学校作りに取り組む生徒の割合が全学年85%以上	堺市学習・生活状況調査 学校教育アンケート結果 いじめアンケート	各学期	○	直接寄せられる声や小さな手掛かりをきっかけに、生徒や保護者と協力しながら、早期対応、早期解決を実践している。	A			
体力UP	体力UP	・体育の授業で走る、投げる、跳ぶ、ストレッチを補強運動として取り組む。 ・クラスマッチなどの様々な体育行事を企画立案し、運動の喜び、楽しさを味わわせながら、運動嫌いの生徒を少なくしていく。	・運動能力向上を意識した体育授業を推進する。	・過去に実施した新体力テストの結果と比較し、生徒の基礎体力の推移をみる。	堺市学習・生活状況調査 学校教育アンケート結果 新体力テスト結果 ノートチェック	通年	○	個人の能力に左右されず、みんなで一生懸命に取り組む、楽しめるような授業形態になっている。また、いずれの種目も段階を追って指導し、上達につなげている。	A	全員がバランスよく授業メニューに取り組みようローテーションを取り入れ、安全に配慮しながら授業を進めた。昼休憩時には運動に取り組む生徒が多く、各学年の体力テスト結果は前年度より上昇した。行事の感想からは達成感や充実感があふれ、評価することができた。	A	学年集団によって平均的な運動能力に差が生じるのは避けられないが、いずれの学年も年々結果の伸びが確認でき、真剣な取り組みとなっていることがわかる。同時に、生徒の様子から行事ごと種目ごとの振り返りも、心と体の成長に寄与していると判断できる。
			・体育ノードで記録をとり成長を確認する。	・スポーツ行事の感想、アンケートをとり、次回の行事に活かす。	・体育授業の単元ごとにノートをチェックし、生徒の状況を確認する。	学校教育アンケート結果 感想文等	行事後	◎	体育大会においては、ほぼ全員が全力を尽くし楽しんでいる様子が見受けられた。	A		
			●体育的行事を積極的に実施し、仲間たちと楽しく身体を動かすことの喜びを体験させる。	体育授業を通して行事を活性化し、感想文から満足度を推し量る								
地域協働	信頼される学校	学校情報の積極的な発信を行うとともに、地域とともに歩む学校づくりを進める。	★学校ホームページ、学校だより、学年だより、保健だより、学級通信などを通し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	学校ホームページや通信類などを通して、連絡事項や学校の様子をわかりやすく伝えていくという肯定回答が全学年85%以上	学校教育アンケート結果	年度末	◎	管理職が中心となって、生徒の様子から教育情報に至るまで、こまめに発信している。各種通信類も定期的に発行できている。	A	学年や学校からの通信、Webページには目標値を超える肯定回答が寄せられ、本校の教育活動を知らせるツールとして定着している。PTA活動や地域行事へは管理職が中心となって参加し、人間関係構築に努めた。	A	学校への興味、関心、理解を得るための積み重ねが評価につながっている。また、家庭内のコミュニケーションも学校と家庭との関係構築には不可欠である。今後もPTA活動や地域行事における良好な関係を期待している。
			地域行事に積極的に参加し、保護者・地域の人々との交流を図り、信頼関係を築く。	地域の行事や定例会に参加し、学校と地域の相互理解を深め、情報交換に努める	参加実績	年度末	◎	ほぼもれなくPTA行事や地域行事に参加し、強固な人間関係作りを意識している。	A			

校長より(年度末) 通級指導教室は、個々の課題や学校生活への不安に応えるための体制として少しずつ定着し、本校の重要な教育活動の一つとなった。ICT機器の活用を今年度の重点目標として掲げ、昨年度に比べてICT研修の利用や校内での活用が増え、新年度の授業作りへの期待が高まっている。生徒指導は前年度同様、生徒の声に耳を傾け、丁寧に対応することを大切にし、生徒と職員の信頼関係作りや落ち着いた教育環境作りにつなげている。一方、新年度も生徒数の減少が教職員の減少につながり、部活動等の教育活動に影響が出てしまうことは避けられない。学習習慣の課題は、生徒の自尊感情や自己有用感を高めたり、夢や希望を持たせたりすることを基本に取り組みたい。

学校関係者評価者から(年度末) 欠席がちな生徒は全国的に増加傾向にあり、本校における対応は地域においても重大な関心事である。困り感のある生徒や保護者に寄り添い、将来につながる今を過ごすため、支援体制の構築が望まれる。小中学校の通級指導教室が連携し、一人でも多くの生徒が充実した学校生活を過ごせるようにご尽力いただきたい。